

# 事業の効果とりまとめ

## 地域で取り組む内容を抽出



- ・モビリティの多様化

従来は各移動手段の役割分担がきまっていたが近年多種多様なモビリティがでてきた。

都市にとって有効なものはどれかが複雑になってきている状況で、色々なモビリティがある中でどう位置付けていくかを整理する必要がある

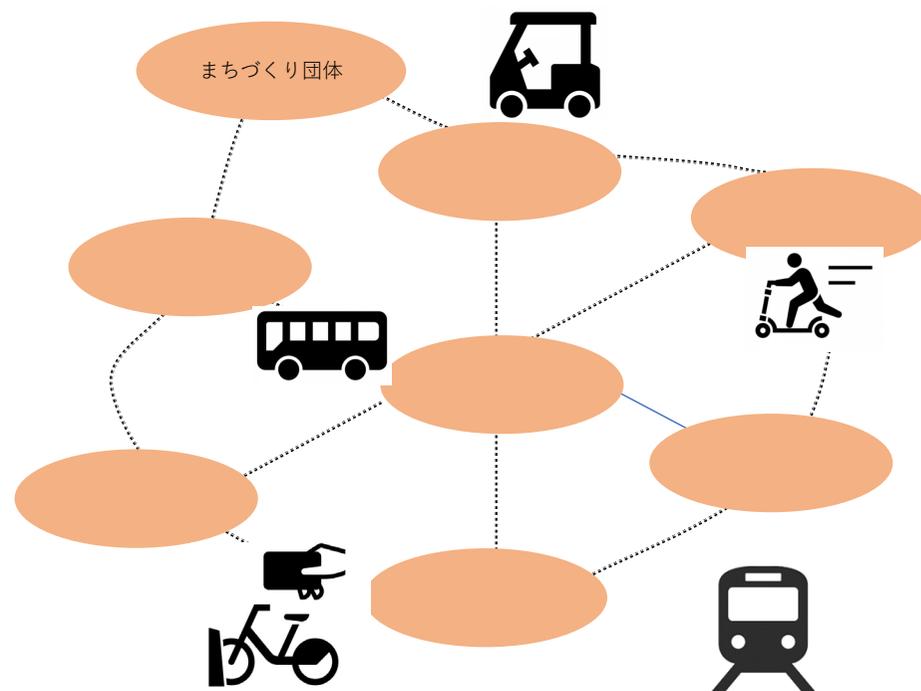


地域の特性を生かした移動手段を本気で考えるまちづくりプレイヤーが生まれてきている。

新しい手段が生まれても、それらをコーディネートできるプレイヤーが生まれてこないと意味がない。



各まちづくり団体が実際に地域でのワークショップを通して、交通まちづくりに携わることができる人材育成に取り組んだ。



# 新たな枠組みでの情報発信

## 各まちづくり団体による人材発掘・育成事業が進んだ

①都心まちづくり、水辺まちづくり、交通まちづくり、地域まちづくり、商店街振興等の名古屋の各地に点在するまちづくり団体の各活動分野において



②それぞれに身近な高校生、大学生、地域住民をターゲットとして



③各団体の得意とする形式（講義、ワークショップ、実践、フォローアップ、広報等）により



④まちづくりの意義や未来像、まちづくり人材の役割、共創の必要性についてのディスカッションや実践を行うことを通じて



⑤まちづくり人材としての活躍場所を認識させ、行動力、発想の柔軟性、コミュニケーション能力、イベント等の企画立案能力、合意形成能力を習得させる仕組みを作った。

**最終的に各地域での交通人材育成のためのカリキュラムまで発展させることができた。**

## 地域共創シンポジウムでは

より広い活動分野の者同士が「ローカルインフラの創出（リ・デザイン）を始めとする共創と地域一体型の魅力発信」をテーマに交流、ディスカッションすることができた。



# シンポジウムによる情報発信とその連鎖

次年度以降の継続事業として地域共創シンポジウムの開催を進めていく。

今年度のまちづくり団体に加えて、新たなまちづくり団体とともにより発展的に持続可能な人材育成を進めていく。

